福山大学　生命工学部 生命栄養科学科　平成30(2018)年度　自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域: 使命・目的、教育目的

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中長期計画	糖尿病、虚血性疾患、がん等の生活習慣病が国民の健康問題の大きな課題となっている。これらの発症と進行の予防の観点から、食生活の在り方が重要視されている。生活習慣病をはじめとする食に関連する課題解決に対する確かな能力を備えた人材を養成するための特色ある教育・研究を推し進めることは、社会の要請であると同時に、最近の受験生の志向と合致している。 中目標:平成20年3月に厚生労働省より管理栄養士の養成施設として指定を受けた生命栄養科学科では、これまで培ってきた食や健康、ライフサイエンスの分野での教育・研究の成果を活かし、食を通じた保健・医療・福祉・食品産業分野における支援と活動により、人々の健康の維持・増進、疾病の予防と治癒、生活の質の向上に貢献できる管理栄養士を養成することを目標としている。 小目標:平成28年度より学科の入学定員を50名としたが、平成29年度以降の入学生はこれを下回っている。また、一部の学生に見られる学力ならびにモチベーションの不足は克服されておらず、管理栄養士資格の取得に至らない学生もいる。入試の段階から、初年度教育、専門教育、国家試験対策授業まで一貫した支援体制の完成を目指す。

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。**
点検項目	**① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。**
現状説明	「食を通じた保健・医療・福祉・食品産業分野における支援と活動により、人々の健康の維持・増進、疾病の予防と治癒、生活の質の向上に貢献できる管理栄養士を養成する」という学科の理念・目的は、「人間と自然を尊ぶ教育」、「知行合一の教育」といった大学の建学の精神・教育理念に沿って、明確かつ適切に設定されている。
年度目標	実践的な管理栄養士の養成を継続し、管理栄養士資格取得率の向上と卒業後の進路として管理栄養士職を選択する学生数の増加を目指す。
年度報告	学科目標と合致したカリキュラム設定、学生指導等を行った。過半の学生が、栄養士・管理栄養士資格を活かせる事業所等に就職した。
達成度	A
改善課題	管理栄養士資格の取得に向けた取り組みが不十分で、取得に至らない学生がいる。学生の学修目標を支える取り組みを行う。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度卒業生就職先一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 個性・特色を明示していますか。**
現状説明	全国初の生命工学部の管理栄養士養成施設という特徴を持ち、ライフサイエンスにも強い管理栄養士養成施設としての個性化を継続している。
年度目標	管理栄養士資格取得に向けた道筋を学生に明確に示すと同時に、学科の個性をさらに発揮する学修体形の構築を目指す。
年度報告	管理栄養士養成施設として必要なカリキュラム並びに施設・設備を維持し、学生便覧や各種イベント等の様々な機会を通じて学科の理念・目標を積極的に公表した。

達成度	A
改善課題	引き続き、地域社会・高校等への情報の発信を行う。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。**
現状説明	「生活習慣病をはじめとする食に関連する課題解決」は社会要請であり、これに対して実践的かつ科学的に対応する能力を持つ管理栄養士の養成を目指している。社会変化に伴うシステムの変遷をいち早く取り入れたカリキュラム編成を目指している。
年度目標	管理栄養士養成施設の規定を満たしながら、学術の進展や社会の要請に応えることができる体制を維持する。
年度報告	学科の理念・目的の適切性については、毎年の本計画書・報告書の作成に合わせて学科会議などを通し検証を行っており、これを改善する共通の意識は築かれている。
達成度	A
改善課題	変化しつつある管理栄養士に求められる資質に対応して、教育目標ならびにコア・カリキュラムの修正を目指す。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**1-2. 使命・目的および教育目的の反映**
点検項目	**① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。**
現状説明	教育目標等の制定・改正にあたっては、学科内で議論を重ね最終的に学科会議に諮って決定している。教育目標は、学生便覧、大学案内、大学ホームページ上に掲載させれていて、誰もが常時確認することができる。社会の変化に伴い、数年に一度改定している。
年度目標	学科目標等を教職員全員がしっかりと意識し、必要に応じてこれを改正する体制を維持する。
年度報告	学科の三ポリシーをシラバス等に明確に反映するように努め、これを年度報告書に反映させた。
達成度	A
改善課題	三ポリシーの実質化に向けた取り組みを引き続き行い、これを年次報告書にまとめることで、学科理念等を検証する体制を維持する。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	教員、学生ならびに受験生に対し、学科の理念・目的を学生便覧や大学案内などで周知するとともに、社会に対してもホームページ上に公開している。加えて、公開授業、公開講座等の機会を利用して、学科の教育内容、研究内容、就職先、学科行事や学科活動等を積極的に社会に説明している。
年度目標	学生便覧、ホームページ等による周知はもとより、各種イベント等の機会を通じて、学科の理念・目的の発信を継続する。
年度報告	教育目標等は、大学ホームページや学生便覧等で学内外に公開した。学生に対しては年度当初のガイダンスを通して改めて説明した。自己点検評価等でその妥当性を検証した。
達成度	S
改善課題	学科の教育目標等を分かりやすく説明する体制を強化する。必要な部分については順次見直しを行う。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 中長期的計画へ反映していますか。**
現状説明	学科目標を達成するために、教育課程、教員人事、予算配分を毎年精査している。今後も学科目標が大きく変わることはないものの、社会的要請の変化に沿って中長期的な視点で教育研究を展開する。
年度目標	社会要請に応えながら学科の課題を克服する道筋を探る。
年度報告	学科目標を達成するために、教育課程、教員の配置、予算配分を適切に行った。
達成度	S
改善課題	管理栄養士に対する社会要請の変化に合わせて、中長期計画を再検討する。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**④ 三つのポリシーへ反映していますか。**
現状説明	学科の「教育目標」を達成するために学生が身に着けるべき資質を「ディプロマ・ポリシー」に示し、そのための教育課程を「カリキュラム・ポリシー」に、そしてこのような学修を行うための基礎的資質を「アドミッション・ポリシー」にあげている。これらは互いに整合性を保っている。
年度目標	社会的要請と学科の「教育目標」と三ポリシーの一貫性を維持する。
年度報告	社会的要請と学科の「教育目標」と三ポリシーの一貫性を維持した。
達成度	S
改善課題	引き続き、三ポリシーの一貫性を維持する。
根拠資料	①平成30年度学生便覧

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。**
現状説明	厚生労働省より管理栄養士の養成施設として指定を受けており、カリキュラム、教職員の構成、施設・設備、蔵書などはすべて基準に適合している。さらに、設置基準について毎年自己点検を行っている。これらはすべて、社会に貢献できる管理栄養士の養成を目指したものである。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	管理栄養士の養成施設として必要な教育研究組織を維持した。
達成度	A
改善課題	引き続き教育研究組織の維持・向上に努める。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中長期計画	平成20年度に入学定員70人で本学科が創設された。しかし、その後8年間で定員を上回ることがなかったことから、平成28年度に1年次の入学定員を50人に減員した。28年度の入学者数は50人（充足率 100%）であったが、29年度は35人（充足率 70%）、30年度は24人（充足率 48%）となった。入学者数の減少の最大の原因は、管理栄養士国家試験合格率の低迷にあると考えている。27年度と28年度の合格率が70%台と全国平均（4年制大学新卒者合格率）を下回ったことが大きく影響している。平成29年度合格率は95.7%となり、次年度以後も高い合格率を維持することで受験者数の増加が期待できる。 中目標：定員を常時満たすために、管理栄養士資格取得率の向上を図る。近隣の高等学校から、資格取得に確実に結び付く学科とみなされるようになるには、何年間も続けて結果を残す必要がある。現状の入試制度では、入学する学生の基礎能力は必ずしも均一化していないため、早い段階から同じ目標（管理栄養士資格取得）に向けた指導を始める。また、入試において管理栄養士資格の取得に正面から向き合い続ける資質を持つ学生を確保するために、特に学力試験を課さないAO入試と指定校入試において、大学における学修に対する強い覚悟を求める。将来的には、受験者数を130人程度にまで増やす努力を続ける。 学科の情報発信力の低下も、学生募集に影響を与えている。地域と連携しながら様々な活動を継続できる体制をとる。 小目標：学生の資質を、入試段階から入学当初、各学年ごとに体系的に把握し、個々の実情に合わせた指導ができる体制とする。そのために、学修成績だけでなく、学修に取り組む姿勢や管理栄養士資格取得に向けた意欲を計る。情報発信力の向上のために、地元に密着した活動を行う。食と健康に関する福山地域における知の拠点を構築する。

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	**① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。**
現状説明	学科の「教育目標」をもとに、三ポリシーを制定した。「アドミッション・ポリシー」にある「食を通じた支援と活動により、地域社会に貢献できる人材を育成」することは、現代社会の要求であり、このポリシーは適切である。 「アドミッション・ポリシー」を含む三ポリシーは、学生便覧や大学案内、大学ホームページ上で公開し、多くの人が簡単に見ることができる。
年度目標	要覧、学科ホームページなどで、求める学生像等を引き続き示していく。
年度報告	教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定し、これをホームページ等で周知した。
達成度	A
改善課題	アドミッションポリシーをはじめとする学科の三ポリシーの理解が不十分な学生が散見される。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。**
現状説明	入学者選抜方法や出身高校と入学後の学業成績等との関係性を検証し、一定の傾向を導き出した。これを入試制度に還元することはできていないが、入学後、特に初年次の学生指導に役立てている。
年度目標	今年度も、入学生の学力やモチベーションに関する検証結果を学生指導に活用する。
年度報告	学科の目標や三ポリシーへの学生の理解を検証した。
達成度	B
改善課題	入学時には管理栄養資格への強い意欲を示すものの、その後も意欲を持続できない学生が散見される。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	高校等への学科三ポリシーの発信を継続するとともに、意欲を継続できる学習指導体制を構築を進める。
点検項目	**❸ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。**
現状説明	平成28年度以降の入学者数は、28年度50人（充足率：100%）、29年度35人（充足率：70%）、30年度24人（48%）と減少している。その原因としては国家試験合格率の低迷が大きく、また卒業生に占める資格取得者の割合の低さも原因の一つである。一方、学科の情報発信を積極的に行っているものの、長期的には発信力が低下傾向にあり、地域社会における存在感を保てていない。学科行事の硬直化や活力の低下が目立つ。
年度目標	管理栄養士資格取得率の向上が必須課題である。それぞれの授業、補習、学生指導等で学生個々の状況に応じた指導を継続する。

年度報告	管理栄養士資格取得率の向上のための指導を強化するとともに、教員による高校訪問の回数を増やした。2019年度入学者は2018年度と比べて大きく回復したが、定員充足には至らなかった。そのため、情報発信力強化のために2019年度から新たな取り組み「福山大学　食と健康ひろば:ローズスクェア」を進める準備を行った。
達成度	A
改善課題	管理栄養士資格取得率のさらなる向上とローズスクェアの計画遂行が必須課題である。
根拠資料	①生命栄養科学科高校訪問計画書 ②「福山大学　食と健康ひろば:ローズスクェア」計画書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❹ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。**
現状説明	この2年間の本学科の入学者数は、定員を大きく下回っていて、地域・高校の信頼を十分に得ていないことが示された。管理栄養士養成施設として、資格取得が大きな目標であり、これを十分に達成できていないことが課題である。授業方法や卒業演習等を工夫し、少しずつではあるが改善の傾向が現われてきた。しかし、資格取得に対するモチベーションが極めて低い学年もあり、抜本的な改善には至っていない。この学年については、管理栄養士養成施設としての目標を改めて学生に自覚させ、大学における学修の意味の理解を徹底させる。
年度目標	管理栄養士資格取得のためには、国が定める水準の試験で優秀な成績、すなわち本大学の定期試験のレベルで概ね「優」以上をとることを求められている。すべての学生がこれを達成する必要があるものの、日常の学修にそのままあてはめる(「優」以上で単位取得とする)ことは現実的でない。4年次の3月までに段階的に成績を上げていくことを目指す。これにより、入学したすべての学生が資格取得に近づけるようにする。
年度報告	学生のモチベーション向上の取り組みは明確な成果につながっておらず、平成30年度卒業生の資格取得率は、前年度より少し低下した。
達成度	C
改善課題	国家試験を目前に控えた4年次生への指導を強化するとともに、1年次生から継続的な指導を行う体制を強化する必要がある。
根拠資料	①平成31年度福山大学入学手続状況表(全学教授会配布資料)
次年度の課題と改善の方策	4年次生の卒業科目による指導を徹底する。継続的な学生指導のためにカリキュラム変更を行い、キャリア教育の強化を進める。「福山大学　食と健康ひろば:ローズスクェア」を通じて積極的に情報を発信する。

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**2-2. 学修支援**
点検項目	**① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。**
現状説明	カリキュラム等は、学科長、教務委員が中心になって教育目標とカリキュラム・ポリシー等に従って立案し、学科会議に諮っている。さらに、学科独自の修学支援として、国試対策の補講、それに対する習熟度試験(ウイークリーテスト)、業者模試を実施している。これらの活動は、学科のすべての教員が分担して実施しており、計画立案の段階で教員の意見を集約している。成績不振者を含む学生個人への対応はクラス担任が中心になって行っている。問題を抱えた学生の情報は教員間で共有している。カリキュラムやシラバス等の情報は学生便覧やホームページ等により、学生並びに学外に公開されている。補習授業等の非正規科目は、学内掲示やZelkovaで学生に周知している。
年度目標	管理栄養士養成施設として、資格取得に向けた教育体制を維持する。多用な課題を持つ学生を組織的に支援する。

年度報告	4年次生に向けた学修支援を強化したが、資格取得率の向上に結び付かなかった。
達成度	B
改善課題	4年次生のモチベーションの強化が不十分であった。4年次生に比べて、1～3年次生への学修支援が弱い。
根拠資料	①平成30年度授業評価アンケート結果 ②平成30年度管理栄養士国家試験結果報告書
次年度の課題と改善の方策	モチベーション強化のための学修内容の変更を2019年度より行う。4年次生の卒業演習科目での指導を強化する。
点検項目	**② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。**
現状説明	ティーチング・アシスタント（TA）は、生命工学専攻の大学院生（1名）が学生実験の補助として1年次の二つの学生実験に参加している。TAは大学院生に限定しており、管理栄養士課程を経た大学院生は少ないことから、TAの活用範囲を多くの支援が必要な1年次の実験・実習にとどめている。
年度目標	今年度もTAとなる大学院生は1名である。そのため、本人の学修・研究活動への影響を考慮して、TAの活用を昨年度と同じく1年次生の実験に限定する。
年度報告	年間で54時間のTAを計画したが、27時間分の予算が削減されて半分が実施できなかった。
達成度	B
改善課題	前後期2回のTAを実施するために、大学院生と予算を確保する。
根拠資料	①平成30年度ティーチングアシスタント実施申請
次年度の課題と改善の方策	初年次の学修指導を強化する取り組みの一環として、TAを前後期2回実施する。

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**2-3. キャリア支援**
点検項目	**① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。**
現状説明	キャリア教育として、1年次のキャリアデザインIを必修としている他、3年次の臨地実習・校外実習で管理栄養士が働く職場で実務を経験する。臨地実習に先立つ総合演習では、外部講師（管理栄養士）による講演等などの事前学習と、実習後の発表会に向けた事後学習を行っている。これにより、臨地実習施設での態度、就職活動での行動が大幅に改善され、管理栄養士職への理解が深まった。
年度目標	1年次のキャリアデザインⅠのカリキュラムを改定し、大学での学びの意義を確認する。
年度報告	キャリアデザインⅠの授業内容を見直した。次年度以降にキャリアの指導体制を改めるためにカリキュラム変更を行った。
達成度	A
改善課題	管理栄養士資格による職業的自立を志向する意志が弱い学生がおり、学修意欲の低下につながっている。
根拠資料	①2018年度キャリアデザインⅠシラバス ②2019年度生命栄養科学科カリキュラム
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	❷ 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	2015年度:卒業者数　54人、内定者数　53人、大学院進学　0人、未内定者 1人、その他　0人 2016年度:卒業者数　57人、内定者数　54人、大学院進学　2人、未内定者 0人、その他　1人 2017年度:卒業者数　30人、内定者数　30人、大学院進学　0人、未内定者 0人、その他　0人 就職希望者は、2015年度の1人を除いてすべて進路を決めることができた。就職先は、栄養士・管理栄養士資格を活用できる職場(病院、福祉施設、食品小売業など)が過半であった。その他に食品製造業、外食産業等に就職する学生も多い。病院勤務を希望する学生が比較的少ないことが課題である。一方で、銀行や証券会社、自動車販売業等に就く学生もおり、これらの学生が管理栄養士資格の取得に積極的でない傾向がある。
年度目標	就職希望者全員の就職を今年度も達成する。進路を見つけられない学生に対しての根気よく指導を続ける。
年度報告	2018年度卒業生は、卒業者数39人、内定者数38人、大学院進学1人、未内定者 0人、その他　0人であった。企業の採用意欲が高く、就職は順調に進んでいる。
達成度	S
改善課題	病院勤務を希望する学生が少ない。
根拠資料	①平成30年度卒業生就職先一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。**
現状説明	栄養士・管理栄養士資格の取得を目標とする学科であり、さらに栄養教諭一種、食品衛生監視員・食品衛生管理者等の資格取得も可能なカリキュラムを設定している。インターンシップは、1・2年次生が毎年参加し、食品製造業などで経験を積んでいる。インターンシップは、自分未来創造室が行っているBINGO OPEN インターンシップに参加することで実施している。
年度目標	できるだけ多くの学生にインターンシップへの参加を促し、社会人となるための道筋を確認させる。
年度報告	2018年度の資格取得者は、管理栄養士27人、栄養士39人、栄養教諭一種4人、フードスペシャリスト5人であった。食品衛生監視員・食品衛生管理者は任用資格である。インターンシップには、1年次生の2名が参加した。
達成度	B
改善課題	管理栄養士資格取得率が低下した。企業インターンシップへの参加者が減少した。
根拠資料	①平成30年度ビンゴオープンインターシップ報告書
次年度の課題と改善の方策	管理栄養士資格取得に向けた取り組みを継続して行う。企業インターンシップには、1年次に参加して2年次以降は参加しない傾向が強いことから、1・2年次生に対する働きかけを強化する。
点検項目	**❹ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。**
現状説明	就職指導は、1年次のキャリアデザインⅠから始まって、インターンシップ、臨地実習を経て3年次後期から順次本格的な活動に移っている。この中で、就職課と連携して就活講座、適性試験、OB/OG体験セミナー等を開催し、就職活動に臨むにあたって必要な情報を提供している。その他に、面接試験の練習、履歴書・エントリーシートの書き方等を指導している。迷いのある学生や就職意志が希薄な学生等に対する指導は、指導教員が行っている。これらの取り組みにより、平成29年度卒業生はすべて就職に至った。

年度目標	就職希望者全員の就職を今年度も達成する。なかなか進路を見つけられない学生に対しての根気よく指導を続ける。
年度報告	2018年度も就職希望の学生全員が内定を獲得した。
達成度	S
改善課題	管理栄養士資格を活かせる職種への就職率を向上させる。
根拠資料	①平成30年度卒業生就職先一覧
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**2-4. 学生サービス**
点検項目	**❶ 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。**
現状説明	学科独自の修学支援として、補講や習熟度試験を実施している。また、クラス担任が中心となって学習相談や生活相談を必要な範囲で行っている。経済的支援については、学生課への相談を促すにとどまっている。
年度目標	相談に対して耳を傾け、適切な相談窓口に学生を誘導する。
年度報告	大学の奨学生制度ならびに学生支援機構の奨学制度を多くの学生が利用している。学生の生活支援に向けた取り組みを行ったが、経済的支援について直接の相談はなかった。
達成度	A
改善課題	学生の生活支援に向けた取り組みを継続する。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録（学生の動向）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。**
現状説明	全学的な取り組みとして、学内でのハランスメント防止のための規定の整備、相談窓口の整備、手続きの明確化、学生への案内は適切に行われている。本学科教員からも相談員を選出している。これとは別に、学生が安心して学生生活を送るために、担任・副担任を中心とする複数の教員で学生一人一人の相談に乗り、必要に応じて学生の保証人も交えて相談に乗るなどの体制を整えている。
年度目標	学生のトラブル等を早期に発見し、解決に向かわせる体制を維持する。
年度報告	2018年度中にハラスメントに関する相談はなかった。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録（学生の動向）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。**
現状説明	学生の人間的成長を促進し、多様な経験を積むことができる諸活動に対して積極的に参加するように指導している。学内外のサークル等の情報を適宜発信している他、学科行事と関連した社会貢献活動への参加を呼び掛けている。

年度目標	大学全体の情報発信と学科独自の活動を継続する。
年度報告	サークル活動等に積極的に参加する学生がいるものの、その割合は大きくない。1年次から専門科目の講義が多く、余裕を持てていない学生が多い。
達成度	A
改善課題	課外活動の重要性をキャリアの中で説明して、自発的な参加を促す必要がある。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録（学生の動向）
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**2-5. 学修環境の整備**
点検項目	**① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。**
現状説明	施設等は適切に管理され、安全性が確保されている。研究関連施設は利用者（教職員・学生等）によって管理されている。共用部分は分担を決めて管理し、清掃は業者によって行われている。当学科が主に利用する18号館は建設から29年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。使用が難しくなったもの、ならびに学生募集等に悪影響を及ぼすレベルに劣化したものについては、順次改修を行っている。生命工学部の移転ならびに学部学科の再編計画の進捗に合わせて、改修あるいは移転について検討する。
年度目標	生命栄養科学科設置から10年が経過し、設置当初に整備した所でも不具合の頻度が高くなってきた。管理栄養士養成施設として必要な学修環境を維持できるように、中長期的視野で改修を行う。
年度報告	老朽化した機器の一部を更新した。
達成度	S
改善課題	時代の変化に応じた機器の導入と老朽化した機器の更新を進める。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検 ②平成30年度生命栄養科学科予算申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。**
現状説明	学科の専門科目として、健康情報演習、栄養教育実習、公衆栄養学実習、給食栄養管理実習、総合演習などの演習・実習で多岐にわたりICT活用教育を行っている。これらの授業は、主に1号館の教室を利用しているが、専用のアプリケーションを必要とするいくつかの実習では、学科に設置された専用パソコンを使わざるを得ない。ZelkovaならびにCerezoを数多くの授業で活用した。実験・実習等で使用する18、28号館の施設・設備はすべて計画通りに活用している。1年次の教養ゼミで図書館を見学し、利用を促した。
年度目標	学科の教育目標達成のために、効果の高い授業を提供する。そのために、ICT教室を含む学内の施設・設備を最大限に活用した教育を目指す。
年度報告	学科の専門科目でICT教室等を広く利用した。
達成度	S
改善課題	専用アプリケーションを必要とする授業科目を全員が同時に参加できる環境を整備する。
根拠資料	①生命栄養科学科専門科目シラバス

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。**
現状説明	学内の学生専用設備・アメニティ施設は、1号館周辺に集中的に整備され、バリアフリー化が進んでいる。生命栄養科学科が主に利用する18号館周辺にアメニティ施設は少ない。実験室等での飲食禁止を徹底しており、学科に滞在する学生数に対してアメニティ施設は不足している。18、28号館の施設は、概ね車いす等の移動が可能となっているが、トイレや階段教室、実習室等の完全バリアフリー化には至っていない。
年度目標	学科施設の目的(講義、実験、実習、セミナー、会議、自主学習、アメニティ等)に合わせて使用規定を定め、必要に応じて施設の改修・移動を行い、学修環境の整備に努める。現在、重度の身体障碍を持つ学生・教職員が在籍していないことから、現状の施設等で日常的な活動に支障はない。今後は、在籍者の実情に合わせて改修を検討する。
年度報告	2018年度は新たな施設改修を行わず、現状の施設を支障なく利用できる環境を維持した。
達成度	A
改善課題	18号館周辺には学修空間を十分に配している一方で、アメニティ施設が不足している。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。**
現状説明	管理栄養士養成施設に関する厚生労働省の規程には、教室の収容定員や設備の条件、ならびに受講する学生数等が定められており、本学科が使用する施設はすべてこれを満たしている。毎年3月に実施する「管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検」において施設の適切性を確認している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学修に必要な施設・設備を維持・管理した。
達成度	S
改善課題	施設・設備の経年的劣化に備えて更新計画が必要である。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❺ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。**
現状説明	大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んでいる。学科会議等を通じて安全管理の徹底を指示している。避難経路、消火器の配置等については、消防署の検査を受けている。
年度目標	講義室や実験室、研究室毎に災害時の避難経路を設定する。
年度報告	大学の規程・マニュアルを徹底したが、学科独自の対策には至っていない。
達成度	B
改善課題	安全衛生委員会の規程・マニュアルに則した学科独自の対策をまとめる。

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	18号館、28号館の立地等に配慮した危機管理の対策をまとめる。
点検項目	**❻ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。**
現状説明	大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、試薬類を管理している。学科内の試薬はすべて台帳(Excel版)で使用等を記録している。可燃物等の試薬は18号館南側の危険物保管庫で保管している。試薬の使用・保管区域と学修・アメニティ等の区域を厳密に分離している。
年度目標	安全衛生委員会と連携して、管理システムの導入を目指す。そのために、試薬の使用・保管場所を整理する。
年度報告	試薬の使用・保管場所を整理したが、管理システムの導入には至っていない。
達成度	A
改善課題	安全衛生委員会と連携して、試薬等の管理システムの導入を目指す。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❼ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。**
現状説明	学生に対しては、実験・実習等の中で安全教育・啓発活動を行っている。また、29年度には学生・教員の多くが、全学の防災訓練に参加した。18、28号館周辺施設の避難経路の確認、学部学科での防災訓練の実施を目指す。
年度目標	避難経路図を作成し、学生・教員に周知する。自分ならびに集団を守る行動をとれるようにする。
年度報告	学部FD研修等を通じて大学の規程・マニュアルを徹底した。臨地実習・校外実習における学生の安全確保に関するマニュアルを策定した。
達成度	B
改善課題	臨地実習・校外実習以外の活動での学科独自の対策を立案できていない。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	安全衛生委員会の規程・マニュアルに則した学科独自の対策をまとめる。

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**2-6. 学生の意見・要望への対応**
点検項目	**① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。**
現状説明	学生アンケート等による全学的な意見聴取で学修支援の適切性を評価している。学科独自のアンケート等は行っていないが、個人面談等で学生の意見を個別に聞く機会がある。アンケート結果や学生からの意見は、学科で回覧・周知し、教育内容・方法の改善につなげている。また、授業評価アンケートの結果については、各教員が報告書を提出するほか、教員の自己点検評価項目にも組み込まれていて、毎年振り返りを行っている。学生の要望に対しては、できる範囲で対応している。

年度目標	大学での学修に適応し、目標に向けて努力を続けるように指導を強化する。一方で、初年次から学問体系を理解せずに最低限で試験に合格することを目指す学修態度をとり続け、基礎学力が不足したまま国家試験勉強に臨んでしまう学生が多い。大学の教育理念に則り、低学年時には基礎学力を重視する学修支援を行う。
年度報告	授業アンケート等に対して適切なフィードバックを行い、アンケート結果を授業等の向上に活かしている。
達成度	A
改善課題	管理栄養士を目指す学生に向けた独自の意見聴取の機会を設ける。
根拠資料	①平成30年度授業評価アンケート報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。**
現状説明	学生の健康相談や生活相談は、学生課ならびに保健管理センターと共同して行っている。食品や栄養管理を扱う学科の性格上、特に学生の健康保持・増進および安全・衛生への配慮は十分に行っている。そのために、担任・副担任を中心とする複数の教員で学生一人一人の相談に乗るなど、指導体制は充実している。学生相談の個々のケースは、可能な範囲で教員間で共有している。本学科だけでは例数が少なく系統的な分析は難しいが、情報を共有することで教員の経験を蓄積している。
年度目標	心身に障害を持つ、あるいは障害を持つことが疑われる学生に対する指導を充実させる。
年度報告	クラス担任を中心に、学科としての指導体制を維持した。
達成度	A
改善課題	問題を抱えた学生に対する専門的なサポート体制を構築するまでのアプローチが容易ではない。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録（学生の動向）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。**
現状説明	学生アンケート等による全学的な意見聴取で学修環境の適切性を評価している。学科独自のアンケートは行っていないが、個人面談等で学生の意見を個別に聴取している。アンケート結果や学生からの意見は、学科で回覧・周知し、予算申請等に反映させることで学修環境の改善につなげている。課題としては、実験室、学習室、アメニティ室が十分に独立していないことがあげられる。
年度目標	学生の要望を把握して、順次環境を整備する。これにより、学生の満足度の向上につなげる。
年度報告	学生面談等の機会をとらえて学生の要望の聴取に努めた。卒業生アンケート等の結果と合わせて対応を検討した。
達成度	A
改善課題	生命栄養科学科周辺のアメニティ施設の不足を訴える声が寄せられているが、十分には対応できていない。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録

次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

基準3. 教育課程

領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中長期計画	大学の教育理念を基本に沿って、学科の「教育目標」並びに「三ポリシー」を制定した。当学科は、管理栄養士養成施設に指定されており、教育課程・教育内容は法律等で定められた規定に従って作成されている。平成29年度には、学科のコアカリキュラムとアセスメント・ポリシーの原案を作成した。30年度以降に正式に導入する。 中目標:管理栄養士として必要な知識・技能・態度等の修得と、実践で活躍するのに必要な観察力・行動力の養成を目標に、管理栄養士養成を目指した教育課程と学位授与方針を維持する。栄養士免許および管理栄養士免許取得に対する質の保証をめざす。 小目標:学修成果はアセスメント・ポリシーに従って評価されるが、特に管理栄養士資格の取得も大きな指標となる。そのため、卒業時に管理栄養士資格を取得し、管理栄養士として地域社会に貢献することができる学生の割合を増やす。平成29年度は卒業生の過半が管理栄養士資格を取得しており、今後も資格取得に向けた取り組みを続ける。

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定**
点検項目	**① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。**
現状説明	大学の教育理念に則した学科独自の教育目標を設定し、目標に沿った学位授与方針を採用している。卒業により得られる栄養士免許および管理栄養士の国家試験受験資格取得に対する質の保証を実施している。この方針は、学生便覧ならびに大学ホームページを通して学内外に公開している。
年度目標	ディプロマ・ポリシーの適切性を検証する。
年度報告	学生便覧ならびに大学ホームページ等を通じて周知した。
達成度	S
改善課題	現状を維持する。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。**
現状説明	学科の「教育目標」と「三ポリシー」は、大学の「教育目標」に沿って作成され、互いに整合性がとられている。これらのポリシーに従って、カリキュラムが編成され、各科目の成績評価方法、進級基準、卒業認定基準が定められ、学生便覧ならびにシラバス等に明示されている。ルーブリック評価は、一部の授業で取り入れられている。
年度目標	29年度中にアセスメント・ポリシーの原案を作成し、29年度成績を用いた試験的な評価を実施する。その結果を踏まえて、本学科における学びの適切性を判断し、認定システムを含む教育課程を修正する。また、第三者によるシラバスチェックを継続して行う。

年度報告	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準等を策定・運用した。今年度作成した学科のアセスメントポリシーに基づき、平成30年度の本学科における教育の在り方の適切性を評価する。(31年度中に実施予定)
達成度	A
改善課題	アセスメントポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。**
現状説明	本学科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針および認定基準等は、学生便覧、シラバスならびにホームページ上に公開している。教員に対しては学科会議で、学生に対しては春季学生オリエンテーションを通して重ねて周知している。これらの基準の適用について、アセスメントポリシーにより評価する。
年度目標	アセスメント・ポリシーを正式に制定し、認定基準を含む学科の教育システムの有効性を検証する。
年度報告	本学科の教育目標をホームページ等を通じて広く周知した。その適切性は、アセスメントポリシーによる評価に基づいて判断する。(31年度中に実施予定)
達成度	A
改善課題	アセスメントポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**3-2. 教育課程及び教授方法**
点検項目	**① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。**
現状説明	教育目標(目的)ならびに学位授与方針に基づき、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を「地域社会に暮らす人々に対し、生命科学に基づいた支援と活動を実践できる管理栄養士・栄養士を養成する」こととし、入学から卒業まで一貫したカリキュラム編成を行っている。カリキュラム・ポリシーは、学生便覧、シラバスならびにホームページ上に公開し、周知している。
年度目標	カリキュラム・ポリシーの適切性を検証する。
年度報告	教育目標と学位授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針を維持し、ホームページ等を通じて公開した。 カリキュラム・ポリシーの適切性は、アセスメントポリシーと管理栄養士資格取得率をもとに、31年度中に評価する。
達成度	A
改善課題	現状を維持する。

根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。**
現状説明	学科の「教育目標」と「三ポリシー」は、大学の「教育目標」に沿って作成され、互いに整合性がとられている。互いの関連性はカリキュラムマップで分かりやすく明示している。
年度目標	アセスメント・ポリシーを完成させて、これにより三ポリシーを含む学科の教育システムの適切性を検証する。
年度報告	互いに整合性を持って定められた学科の「教育目標」と「三ポリシー」を維持した。アセスメントポリシーに基づく評価により、本学科における教育の在り方の適切性を判断する。（31年度中に実施予定）
達成度	A
改善課題	アセスメントポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。**
現状説明	学科の「教育目標」と「三ポリシー」は、大学の「教育目標」に沿って作成され、これに沿った教育課程を編成している。教育課程とカリキュラム・ポリシーとの整合性は、カリキュラムマップから容易に読み取ることができる。
年度目標	アセスメント・ポリシーを完成させ、カリキュラム・ポリシーを含む学科の教育システムの適切性を検証する。
年度報告	カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を維持した。アセスメントポリシーに基づき、教育システムの適切性を検証する。（31年度中に実施予定）
達成度	A
改善課題	アセスメントポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。**
現状説明	本学科では、共通教育（教養教育）の位置づけを明確にし、全人教育を具現化する教育課程を展開している。管理栄養士として必要な人間力とコミュニケーション力の涵養は共通教育によってなされている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	管理栄養士として必要な資質を育てるために、共通教育科目の積極的な履修を指導した。教養ゼミの時間で個々の学生の教養を高める教育・演習を実施した。

達成度	A
改善課題	管理栄養士として必要な資質獲得に必要な教育課程を維持する。
根拠資料	①平成30年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**⑤ 教授方法を工夫・開発（ICTの活用を含む）し、効果的に実施していますか。**
現状説明	本学科のカリキュラムには、対応能力とコミュニケーション能力を高める科目が多数配当されている。これらの授業では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。また、健康情報演習、栄養教育実習、公衆栄養学実習、給食栄養管理実習、総合演習などの演習・実習でICT活用教育を行っており、多くの授業で、Zelkova・Cerezoを活用している。卒業演習では、導入試験（課題の提示）、講義（課題の理解）、演習（課題の整理）、最終試験（成果の見返し）を一組とする授業を行っている。
年度目標	成績ならびに学生のモチベーションを見ながら、学修方法の改善に取り組む。
年度報告	栄養教育等の専門科目の中で、教育方法の改善を進めた。
達成度	A
改善課題	管理栄養士として必要な資質獲得に必要な教育方法を発展させる。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度生命栄養科学科専門科目シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。**
現状説明	学科の「教育目標」と「三ポリシー」は、大学の「教育目標」に沿って作成され、互いに整合性がとられている。これらのポリシーに従って、カリキュラムが編成され、各科目の成績評価方法、進級基準、卒業認定基準が定められている。これらは、学生便覧ならびにシラバス等に明示されている。
年度目標	アセスメント・ポリシーを完成させ、ディプロマ・ポリシーを含む学科の教育システムの適切性を判断し、必要に応じて卒業判定を含む教育課程を修正する。
年度報告	ディプロマ・ポリシーに基づくと卒業判定を継続して実施した。アセスメント・ポリシーに基づく評価を行い、卒業判定の妥当性を評価する。（31年度中に実施予定）
達成度	A
改善課題	アセスメント・ポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①生命工学部生命栄養科学科アセスメント・ポリシー ②平成30年度学生便覧 ③平成30年度大学要覧
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	**① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。**
現状説明	29年度中にアセスメント・ポリシーの原案を作成し、29年度の成績を用いて試験的に評価を実施する。その結果を踏まえて、本学科の「教育目標」「三ポリシー」ならびに「教育課程」の適切性を判断し、必要に応じて修正する。
年度目標	アセスメント・ポリシーによる評価を行い、教育システムの適切を判断する。
年度報告	三ポリシーに基づくアセスメント・ポリシーを制定し、これを用いて学修成果等を評価する。
達成度	A
改善課題	アセスメント・ポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③生命栄養科学科アセスメント・ポリシー
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。**
現状説明	学生による各種アンケート結果は、学科で回覧・周知し、教育内容・方法の改善につなげている。また、授業評価アンケートの結果については、各教員が報告書を提出するほか、教員の自己点検評価項目にも組み込まれていて、毎年振り返りを行っている。本年度は、アセスメント・ポリシーによる評価を行い、学科の教育システムを総合的に判断して修正につなげる予定である。 これとは別に、各学生の成績、国家試験に向けた模擬試験の成績、さらには管理栄養士国家試験合格率などから、学生の学修到達状況（教育の成果）を学科全体で把握し、改善策を議論している。その成果は、授業や学生指導の改善に役立てている。
年度目標	現状の評価方法に加え、アセスメント・ポリシーによる教育全体の評価を行う。
年度報告	授業評価アンケートに対するフィードバックを行い、指導方法の改善に努めた。アセスメント・ポリシーによる評価から、学修成果等を判断する。
達成度	A
改善課題	アセスメント・ポリシーによる評価を進める。
根拠資料	①平成30年度学生便覧 ②平成30年度大学要覧 ③授業評価アンケート報告書
次年度の課題と改善の方策	

基準4. 教員・職員

領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度　生命工学部　生命栄養科学科

中長期計画	当学科の運営にあたっては、学科目標の達成のために大学の規程に沿って組織的に遂行する。本学科は管理栄養士の養成施設であり、設置にあたり文部科学省と厚生労働省の両方の認可を受けており、規定に沿った体制を維持する。 中目標:栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論、応用栄養学(又は基礎栄養学)のそれぞれの担当教員、さらに人体の構造と機能および疾病に関する担当教員(医師)の配置が管理栄養士の養成施設としての必須条件であり、それ以外にも専門基礎分野の担当教員が3人以上必要で、助手は5人が必須と規定されている。このような教員数を確保することが重要課題である。さらに、有能な管理栄養士の養成という社会の要請に合致した教育・研究を進めるために、上記の規定に沿うだけでなく、学生を適切に指導できる、優れた研究能力を持つ、あるいは地域に貢献できる技術を持つ教員を配置する。 小目標:当学科の教員(11人)の年齢構成(4月1日時点)は、60歳代が6人、50歳代が2人、40歳代が1人、30歳代が2人、20歳代が1人となっている。教員の平均年齢は51.5歳であり、高齢化の解消が課題となっている。今後10年間で50歳代以上の教員7人が定年を迎えることから、次の世代を担う人材の採用計画を立案する。一方、優秀な教員を新しく採用するだけでなく、現在の教員の能力を高めることができる環境を整える。学内外の様々な研修会や学会活動への参加を通して、学科の教育・研究に必要な資質を獲得する。

2018年度　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**4-1. 教学マネジメントの機能性**
点検項目	**① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。**
現状説明	大学の教学マネジメントの中で、学科の教育目標を達成し、人材と成果を地域に還元することのできる体制を構築している。そのために、学科長と学科主任各1名をおくとともに、各課題ごとに責任者を定めている。学科長が責任をもって学科の管理・運営を行うとともに、学科会議等を通じて意見交換を行い、学科長の責任の下で学科の方針を決定している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学科長の責任の下、学科教員が協調して学科運営にあたった。
達成度	A
改善課題	学科教員間の意思疎通をさらに円滑に行う。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。**
現状説明	学部運営と異なり学科運営についての詳細な規定はないものの、学科会議、学科教授会、専門部会(教務会、社会連携会など)で審議・報告し、学科長が最終判断を下している。全学委員会委員会ならびに学部・学科内委員会を置き、各事象について原案をまとめ、会議に諮っている。以上のシステムにより、学科運営にかかわる事項の意思統一を図っている。
年度目標	活発な議論により学科の課題を達成する。
年度報告	学科教員が協力して学科運営にあたった。

達成度	A
改善課題	学科教員の年齢構成に偏りがあり、適切な役割分担を行う支障となっている。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②福山大学諸委員会構成員名簿 ③学科各種委員名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。**
現状説明	工学部・生命工学部事務ならびに学務部教務課、学生課、就職課等の職員と密に連携して学科を運営している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	事務職員と連携して、適正な学科運営を行った。
達成度	A
改善課題	事務の人員不足により機敏な対応が期待しにくい。
根拠資料	①事務への提出書類（原議書、報告書等）
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**4-2. 教員の配置・職能開発等**
点検項目	**① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成（性別、年齢、職階等）となっていますか。**
現状説明	円滑な学科の運営を可能にする教員組織とする。特に、文部科学省による基準ならびに厚生労働省が定めた基準を満たす教員組織を維持する（大学設置基準（昭和三十一年十月二十二日文部省令第二十八号）、管理栄養士学校指定規則（昭和四十一年三月二日文部省・厚生省令第二号））。 学科教員の年齢構成は、「基準4」の「中長期計画」で述べたように平均年齢が51.5歳であり、高齢化の解消が課題である。教員の男女比は男性4人、女性7人で、他の管理栄養士養成施設とほぼ同レベルである。職階は、教授5人、准教授3人、講師1人、助教2人である。管理栄養士資格を持つ教員は、教授1人、准教授3人、講師1人、助教1人である。
年度目標	教員の高齢化に加えて、職階等にアンバランスが生じている。これを順次是正するための人事計画を立案する。
年度報告	文部科学省ならびに厚生労働省が定めた基準を満たす教員組織を維持した。
達成度	A
改善課題	年齢構成等の偏りを長期計画の中で是正する。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	❷ 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	本学科は、大学設置基準（教員8人以上、教授4人以上）、管理栄養士養成施設の基準（教員10人以上、教授5人以上、必須5分野の専属教員各1名以上、医師免許取得者1名以上、助手5名以上）を満たしている。さらに、教職課程（栄養教諭一種、再申請中）に必要な体制を維持している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	文部科学省ならびに厚生労働省が定めた基準を満たす教員組織を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ FD(Faculty Development；教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。**
現状説明	平成29年度は、多数のFD研修会が全学的に開催され、学科教員は積極的に参加した。生命工学部のFD研修会を1回、生命栄養科学科の研修会を2回行った。本学科教員のFD研修会の平均参加回数は5回であった。研修会のテーマは、初年次教育、成績評価、学生指導、大学院教員資格など多岐にわたっている。
年度目標	FD研修会が多様なテーマでいくつも開催され、多くの教員が参加している現状を維持する。講演会形式の研修会が多いことから、目的に則した多様な形態の研修会の開催を目指す。
年度報告	学科の現状についてのSWOT分析(2回)、学外実習における学生の安全管理体制(1回)、成績に基づく指導方法(1回)の3テーマについて、合計4回の学科FD研修会を開催した。
達成度	S
改善課題	次年度も、多様な形態の研修会の開催を目指す。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②学科の現状についてのSWOT分析 ③臨地実習・校外実習における学生の安全確保に関するマニュアル ④成績に基づく学生指導マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	**① SD(Staff Development；教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。**
現状説明	FD/SDの共同研修会が全学レベルで開催された。単独のSD研修会への本学科教員の参加は無い。また、学科レベルでの「教職協働」は行っていない。
年度目標	全学的な「教職協働」の動きと並行して、学科で実施可能な取り組みを行う。
年度報告	学科独自のFD/SD研修会を3回開催した。全学的に実施されたSD研修会に参加した。
達成度	A
改善課題	学科が直面する課題について、独自のSD研修会の開催を目指す。

根拠資料	①生命工学部生命栄養科学科FD/SD研修会記録 ②SD研修会出席者名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。**
現状説明	以前より学科内にサーバーを設置してグループウェアを開設し、会議議事録等の資料の保存・共有、科内の設備予約等に活用してきた。今年度からは、この機能の多くをOffice365に移行し、情報管理並びに利便性の向上につなげる。
年度目標	Office365を用いた科内情報システム共有システムを構築する。
年度報告	Office365を用いた科内情報システム共有システムを運用した。
達成度	A
改善課題	Karinへのデータ移行が進んでいない。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**4-4. 研究支援**
点検項目	**① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。**
現状説明	学科教員の研究専念時間については、その他の大学業務時間に割く時間が多く、十分に確保することは難しい。研究設備の多くは前身の学科より引き継いだものが多く、老朽化が進んでいる。設置後20年以上経過した機器等については、順次更新する。特に、本学科の特徴である食品の分析機器の更新が課題である。化学物質、細胞、遺伝子等の分析機器は、全学共通で運用されているものを使用している。
年度目標	老朽化した施設・設備を計画的に更新する。学科の施設・設備の再配置を進める。
年度報告	研究を進めるための環境を維持した。
達成度	B
改善課題	老朽化機器の廃棄が進んでいない。
根拠資料	①平成31年度予算要求書 ②平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	老朽化機器の廃棄・入れ替えを進める。
点検項目	**② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。**
現状説明	大学で定めた規定等に従って研究を行っている。倫理的な問題が発生する可能性がある研究については、「学術研究倫理審査委員会」の審査を経て事前に認められたものについてのみ行うことができる。本委員会には組換えDNA倫理部会、実験動物倫理部会、微生物倫理部会、、ヒト倫理部会が設置され、各部会が厳密な審査を行い、さらに学内規定に従って本委員会が研究の可否を判断し、学長に上申する。各部会は、研究の事前審査に加えて、教育訓練、研究報告書の保管等も行っている。研究の不正行為等については「研究関連ガイドブック」に従って、教員・学生等のすべての関係者に説明している。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	研究テーマの「学術研究倫理審査委員会」における審査、「研究関連ガイドブック」の周知を行い、研究倫理に関わるトラブル等は生じなかった。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①学術研究倫理審査委員会議事録 ②平成30年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。**
現状説明	18号館、28号館の実験室、研究室は、すべての教員に適切に割り当てられている。研究用機器については、概ね必要なものが使える状況にあり、不足するものについては学内外の機器等を共同利用している。卒業研究を行う学生に対しては、研究費が計上されている。これを超える部分は、外部資金等により調達している。設備機器の老朽化、研究内容の変化等に対応することが課題である。
年度目標	教員の実情に合わせて研究環境を改善する。
年度報告	研究活動で必要な機器等を概ね利用できる環境を維持した。
達成度	A
改善課題	外部資金等の獲得率が伸び悩んでいる。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②平成30年度教務の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❹ 公的研究費の運営・管理（ガイドライン等）が整備され、周知されていますか**
現状説明	全学的な取り組みとして、公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドライン「研究関連ガイドブック」が整備されている。また、FD研修会等を通じて教職員に周知徹底され、学内審査機関も適切に運営されている。科研費の研究助成を受けた教員は、ガイドラインに沿って適切に予算を執行し、申請書等を学部事務が適切に処理している。各種研究助成金の使用に関しても、「公的研究費取扱規則」に則って学部事務室が適切に対応している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドラインに沿って活動し、問題等は生じなかった。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②平成30年度外部資金の使用に関する事務提出書類
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度　生命工学部　生命栄養科学科

中長期計画	全学的な自己点検評価活動に合わせて、学科全体で自己点検評価について議論して自己点検評価報告書にまとめ、全学自己点検評価委員会へ提出している。このような自己点検評価書をもとにして、平成29年度に日本高等教育評価機構による大学の第三者評価、ならびに生命工学部の外部評価を受けた。これとは別に、管理栄養士養成施設の自己点検を毎年実施している。数年以内には、厚生労働省による管理栄養士養成施設監査を受ける予定であり、その準備を整えている。外部評価等における本学科に対する意見は、学科内に周知して指摘事項の改善に役立てる。

2018年度　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**6-1. 内部質保証の組織体制**
点検項目	**① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。**
現状説明	大学や学部には、自己点検評価に関する規則等が設けられ、適切に運用されている。学科は、独立した自己点検評価組織を持たないが、学部自己点検評価の一部として学科長を中心に組織的に活動している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学科自己点検評価、教員個人の自己点検評価および管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検を実施した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定 ②平成30年度学科会議議事録 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**6-2. 内部質保証のための自己点検・評価**
点検項目	**① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。**
現状説明	全学的な自己点検評価活動に合わせて、学科全体で自己点検評価に関わる議論を行い、全学自己点検評価委員会へ提出している。平成29年度に日本高等教育評価機構による大学の第三者評価、ならびに生命工学部の外部評価を受けた。また、管理栄養士養成施設の自己点検を毎年実施している。学科の自己点検評価報告書については、大学ホームページ上に公開されている。外部評価での本学科に対する意見は、学科内に周知して指摘事項の改善に役立てている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学科自己点検評価、教員個人の自己点検評価および管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検を実施した。
達成度	S
改善課題	特になし

根拠資料	①平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書 ②平成30年度管理栄養士養成施設指定基準に係る自己点検 ③平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。**
現状説明	入学時のデータ(出身高校、入試種別等)、学生の教務データ、国家試験受験成績等を収集し解析している。ただし、これらのデータを一元的に集計することは難しい。特に、教務データはZelkovaを介してアクセスできるものの、全体の成績分布等は各教員の持つ講義毎の資料から全体像を推し量っている。国家試験合格率に相関性の高い資料を抽出して、指導方法の改善に取り組んでいる。
年度目標	現状で利用できる範囲の資料を分析し、大学での学修効果の向上に向けた取り組みを続ける。なお、個人情報の取り扱いに細心の注意を払う。
年度報告	学生に関わる各種データを学科で蓄積し、解析した。
達成度	A
改善課題	全学的に収集されているデータとの融合は進んでいない。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②平成30年度国家試験受験状況
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**6-3. 内部質保証の機能性**
点検項目	**① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。**
現状説明	大学や学部には、自己点検評価に関する規則等が設けられ、PDCAサイクルの沿った運用がなされている。学科も、学部自己点検評価の一部として組織的に活動している。自己点検評価報告書に対する意見は学科内で周知してその改善策を検討し、さらに次の自己点検に反映させている。これらの仕組みは、平成29年度に受けた二つの外部評価で審査された。
年度目標	学科の自己点検評価については、情報の共有と学科会議での議論を進め、学科長が責任をもって実施する。
年度報告	全学と学部の自己点検評価組織の一部として適切に活動した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。**
現状説明	大学で起こりやすい種々のハラスメント、研究の不正、研究経費の不正等に関する全学レベルのFD研修会等に参加することで、コンプライアンスの意識を徹底している。倫理規定を含む研究活動は、学術倫理審査委員会の許可を得たうえで実施している。これらの成果の具体的な検証は行っていないが、過去5年間に本学科での不正等の発生はない。

年度目標	現状を維持する。
年度報告	コンプライアンスに関する上記活動を継続した。不正等の発生はなかった。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②FD研修会参加者名簿 ③学術倫理審査委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 本学独自基準と点検・評価

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中長期計画	生命栄養科学科では、大学が提唱する「瀬戸内の里山・里海学」の趣旨に従い、平成29年に学科独自のブランディング戦略を策定した。これは、学科の諸活動により学生・卒業生・教員が地域社会で活躍することで、地域の若者の未来を創造し、さらに地域全体の未来の創造につながることを目指している。そのために、教育分野では、地域で活躍できる管理栄養士の養成を目標とし、「生活を楽しむ長寿社会」「専門領域のスペシャリスト」「栄養専門職のキャリア構築」をキーワードに社会に貢献することを目指している。一方、研究活動・社会連携活動分野では、「地域への貢献」「食・栄養分野の発展」「地域の食関連分野の発展」をキーワードに、教員・学生の活動が地域社会の発展につながることを目指している。その一環として、グリーンサイエンス研究センターが主催するブランディングプロジェクトの一部に3名の学科教員が参加・協力している。 中目標:大学のブランディング戦略の沿って、学科ブランディングを向上させるそのために、グリーンサイエンス研究センターのプロジェクトとして「里山・里海学」を発展させる。また、学科の活動のすべてを既存のプロジェクトに合わせることは難しいことから、地域社会への独自の働きかけを続ける。地域の企業、行政、地域団体等の関わりから、学生と地域の未来創造につながる活動を模索する。 小目標:これまでに培ってきた地域とのつながりを継続するとともに、新しい可能性を探る。そのために、学内外の様々な組織と連携し、協働事業に発展させる。

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進**
点検項目	**❶ 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。**
現状説明	福山大学ブランディング戦略については、大学ホームページ等で周知を行っている。研究プロジェクトに参加している2名に対してさらに詳細を伝えている。学生が参加する企画では、その都度活動の目的を周知している。
年度目標	様々な企画の実施を通して、福山大学ブランディング戦略と学科の戦略の両方の周知を進める。
年度報告	福山大学と学科のそれぞれの戦略の周知を行った。
達成度	A
改善課題	全学のブランディング戦略の活動に直接参加している教員が少ない。

根拠資料	①平成30年7月度学科会議議事録 ②生命栄養科学科ホームページ　http://www.fukuyama-u.ac.jp/nutritional-sci/original/entry-5064.html
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。**
現状説明	学科独自のブランディング戦略を策定するにあたり、「学科の諸活動により学生・卒業生・教員が地域社会で活躍することで、地域の若者の未来を創造し、さらに地域全体の未来の創造につながること」を目的とした。単なる広報活動ではなく、地道な地域貢献の積み重ねを優先する計画としている。
年度目標	活動の進めながら、ブランディング戦略との整合性を確認し、社会に認められることを目指す。
年度報告	計画した活動を実施する一方で、次年度の活動方針の見直しを行った。
達成度	A
改善課題	社会への浸透が不足している分野の発信力を強化する。
根拠資料	①生命栄養科学科 ブランディング戦略 ②福山大学　食と健康ひろば（ローズスクェア）計画書 ③平成30年7月度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。**
現状説明	前述の学科ブランディング戦略の「学科の諸活動により学生・卒業生・教員が地域社会で活躍することで、地域の若者の未来を創造し、さらに地域全体の未来の創造につながること」は大学の戦略と一致している。教育分野においては、管理栄養士として地域で活躍できる人材育成を、研究・社会貢献分野では地域の社会・企業等の発展を目指して活動を継続する。
年度目標	既存の様々な活動を新しい戦略の視点から評価し、活動をさらに発展させる。この作業を毎年繰り返し、それぞれの活動を戦略目的に近づける。
年度報告	情報発信のための活動方針の見直しを行った。
達成度	A
改善課題	情報の発信力が不足している部分を強化する。
根拠資料	①生命栄養科学科 ブランディング戦略 ②福山大学　食と健康ひろば（ローズスクェア）計画書 ③平成30年7月度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	**❹ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	学科が参加する地域活動として、生命工学部の公開講座と市民フォーラム、高校生アイデアどんぶり選手権、高校出前授業、教育ネットワーク中国が主催する公開授業と公開講座がある。小学生から高齢者までの様々な年齢層の受講者に対して、必要とされる情報の発信を続けている。
年度目標	学科価値が最大化できるように、情報発信の強化を進める。
年度報告	それぞれ活動を実施する一方で、次年度の活動方針の見直しを行った。
達成度	A
改善課題	地域の課題に密着した活動を強化する。
根拠資料	①生命栄養科学科 ブランディング戦略　②福山大学　食と健康ひろば（ローズスクェア）計画書　③平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❺ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	学科のブランディング戦略では、地域で活躍できる管理栄養士の養成を目標とし、「生活を楽しむ長寿社会」「専門領域のスペシャリスト」「栄養専門職のキャリア構築」をキーワードに社会に貢献することを目指している。そのために、学生に対する教育だけでなく卒業生の学びなおしを意識した講演会を開催している。
年度目標	卒業生の学びなおしを強化するための方策を立案する。
年度報告	学びなおしの活動は実施できなかった。
達成度	B
改善課題	学びなおし活動に必要な資源が不足している。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	学びなおし活動に必要な地域ネットワークを築く。
点検項目	**❻ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	本学科の履修科目として臨地実習・校外実習があり、地域の医療機関、福祉施設、小学校、行政等での実習を行う。また、行政等の学外組織と連携した諸活動を行っており、地域密着型の教育体系をとっている。また、公衆栄養学の学問分野は、地域社会における栄養学の実践であり、地域社会と密接に関連する。
年度目標	現状を維持するとともに、学生や卒業生が地域で活躍する基礎を築く。
年度報告	上記の活動を実行した。
達成度	A
改善課題	学科に対する地域の信頼が不足しており、向上させる努力を継続する。
根拠資料	①平成30年度臨地実習報告書 ②平成30年度社会連携活動報告書

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❼ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	前述の通り、地域の医療機関、福祉施設、小学校、行政等での実習、ならびに学外の諸組織と連携した活動から、座学にとらわれない学修を促している。連携している組織は行政・企業・地元自治会等多様であり、学生の人間力の発展に貢献している。
年度目標	現状を維持するとともに、より多様な分野での活動を模索する。
年度報告	地域と関わる実習・活動を予定通り実行し、多くの学生が参加した。
達成度	A
改善課題	参加学生の意識や行動の変化を客観的に把握することができていない。
根拠資料	①平成30年度臨地実習報告書 ②平成30年度社会連携活動報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度　　生命工学部　生命栄養科学科

中点検項目	**7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト**
点検項目	**❶ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。**
現状説明	グリーンサイエンス研究センターが主催するブランディングプロジェクトに学科から3名が参加・協力しており、「里山・里海学」の発展に寄与している。一方、既存のプロジェクトには参加していない教員も、学科独自のブランディング戦略の中で地域(里)の発展に貢献する活動を行っている。
年度目標	学科独自の活動を発展させる。
年度報告	里山・里海学に関わる学科ブランディング戦力を効果的に展開するために、31年度以降の活動内容の修正を行った。
達成度	A
改善課題	活動内容の修正により教員負担が増大することが予想される。
根拠資料	①平成30年度社会連携活動報告書 ②福山大学　食と健康ひろば（ローズスクェア）計画書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。**
現状説明	ブランディング研究を含めて、研究資金獲得のために、学外助成（科学研究費、公的補助金、受託研究費等）と福山大学独自の助成金へ申請を行っている。文部科学省の科学研究費には学科の過半の教員が申請を行っている。平成29度には、2件の外部資金（合計525万円）を獲得している。
年度目標	前年度より外部資金の獲得件数、金額を増やす。
年度報告	平成30年度は、14件 872.2万円の外部資金を獲得した。 前年度より、件数で12件、金額で347.2万円増加した。 科学研究費助成事業(6件 408.2万円)、共同研究（2件 150万円）、受託研究（1件 47万円）、研究助成金（3件 250万円）、公的補助金（1件 10万円）、事業助成金（1件 7万円）

達成度	S
改善課題	外部資金の獲得に偏りが見られる。
根拠資料	①外部資金等受託申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。**
現状説明	グリーンサイエンス研究センターが主催するブランディングプロジェクトについては、全学の規程に従って論文、学会発表等、さらにはプロジェクト報告書として成果を公表する。学科独自の活動についても、同様に成果を公表する。
年度目標	研究成果については、積極的に公表して社会に還元する。
年度報告	学会発表等を通じた成果の公開を行った。
達成度	A
改善課題	学科からの発信は、主に学術的な発表に限られる。その他媒体での公開を模索する。
根拠資料	①学会発表要旨
次年度の課題と改善の方策	